

中学校区で一体となった生活習慣づくり

★ 家庭での学習時間に力点を置いた取組 ★

三隅中校区では、小中連携教育の事業を進める上で、「学習・生活習慣づくり部会」と「ふるさと教育部会」という2本の柱を立てて取り組んでいます。そのうち「学習・生活習慣づくり部会」は、これまでの「学力向上部会」の名称変更をしました。「学力向上」のためには「生活習慣づくり」の改善をすることが大切であると考え、特に「家庭での学習時間」に力点を置いた取組としました。児童生徒のメディア接触時間の低減を目指した「メディアコントロール」の内容から、自分で自分の時間を管理する能力を育む「タイムマネジメント」の内容に移行し、児童生徒の「タイムマネジメント」能力が向上することで結果的にメディア接触の時間が低減し、さらに学力の向上につながると考えた取組です。

☆ 成果と今後の取組

令和7年度に実施した校区内児童・生徒アンケートでは、「自分が立てた目標通りにできた」児童生徒の割合は73%。その児童生徒で、「規則正しい生活ができた」「勉強時間が増えた」児童生徒は34%でした。成果は限定的ですが、確実に学習時間、生活習慣の改善につながっている児童生徒もいるため、**根気強く取組を続ける**必要があると考えています。今後も社会の変化に対応しつつ、児童生徒の「タイムマネジメント力」向上を図っていきます。

【ふるさと教育部会】では、豊富にある三隅地域の教育資源（ひと・もの・こと）を効果的に学校教育の中に取り込む工夫を続けています。



★ たくましい心と体をもつ児童生徒の育成 ★

弥栄中校区では、昨年度、課題改善に向けた担当を明確化するために**小中連携教育の組織を大きく再編**しました。中でも、小中共通の大きな課題である「家庭学習時間の少なさ」「ゲーム等の接触時間の長さ」「自主学習のあり方」など、家庭での学習習慣づくりの具体的な課題解決のために「学習習慣づくり部」を設けました。同時に、もう一つの大きな課題である生活習慣づくりにおいて、その**根底にある「健康」の諸課題に対応**するために「健康づくり部」を独立して設けました。（健康課題は、弥栄地域の課題でもあります。）

そのため、弥栄中校区では、小中合同で「たくましい心と体をもつ児童生徒の育成」を目指し、「たのしい・おいしい・チャレンジ!」という取組を行っています。今年度は、「塩ちょっぴりでおいしい料理（減塩）」をテーマにして減塩食献立を工夫して考え、実際に調理し、お互いに食べ比べ、King（最優秀）を決めるコンテストを行っています。

今年度は、このチャレンジを通して子どもたち自身が減塩に関する知識を身に付けたり、料理に関わったりし、食生活の大切さや健康管理について気付いたり、考えたりすることで食や健康への意欲や関心が高まることをねらいとしています。

〈パート1〉夏休み『家で「塩ちょっぴりでおいしい料理」にチャレンジ!』

〈パート2〉10月『The King of Low salt を考えよう! 作ろう!』

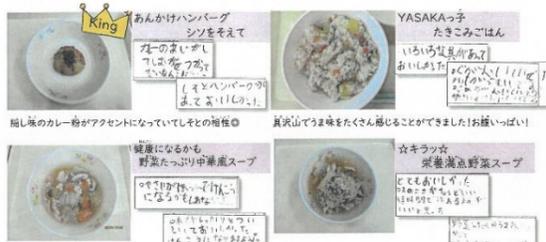
〈パート3〉12月『食べて選ぼう! The King of Low salt コンテスト 結果発表・振り返り』

☆ 成果と今後の取組

今回の取組で、児童生徒は改めて食生活に関心をもつことができました。児童生徒の振り返りには、「人の身体は食べ物でできているので、普段の食生活を見直すとても良いチャレンジになりました。」

「健康のために塩分をあまり摂らないようにするためのいろいろな工夫があることが分かりました。」など**食生活を通して健康な身体や自分の生活を見直したり考えたり**することができました。

今後も弥栄っ子のさらなる健康づくりのために、「弥栄っ子を育てる会」で定めている5項目の中からその時々に応じたテーマで取り組んでいきたいと思ひます。



〈パート3 コンテスト〉

令和7年度を振り返って

表紙にある4つの視点（①各中学校区で一体となった生活習慣づくり、②学ぶ意欲を高め夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成）について、小中連携教育による実践や浜田市教育委員会施策事業、各学校での取組を通して達成を目指しています。目標指標に沿って、今年度の状況を振り返ってみます。下線が今年度値、◎は目標値を、○はスタート値を上回っていることを表しています。目標指標については、「しまねの学力育成推進プラン」との整合性を図った項目としています。併せて、評価対象学年を小学校5年生及び中学校2年生とし、島根県学力調査結果（12月実施）の数値としていましたが、令和7年度より浜田市独自アンケート結果（12月実施）の数値としています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり

「普段（月～金曜日）、1日あたり2時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする子どもの割合」の減少。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：51.3%	中学校2年：43.8%
令和7年度値	◎小学校5年：47.2%	◎中学校2年：66.2%
目標値（令和8年度）	小学校5年：50.0%	中学校2年：42.0%

「普段（月～金曜日）、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：63.5%	中学校2年：51.4%
令和7年度値	◎小学校5年：50.7%	◎中学校2年：30.8%
目標値（令和8年度）	小学校5年：65.0%	中学校2年：65.0%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合」の増加。（新項目）

スタート値（令和2年度）	小学校5年：65.4%	中学校2年：62.5%
令和7年度値	◎小学校5年：63.4%	◎中学校2年：52.2%
目標値（令和8年度）	小学校5年：70.0%	中学校2年：70.0%

☆ 生活スタイルの多様化により、放課後児童クラブやデイサービスなどで宿題を済ませてしまう子どもも多く、家では勉強しないと回答するケースが増えてきました。これにより「1時間以上家庭学習をする子どもの割合」や「家で計画を立てて勉強をする子どもの割合」が目標値を大きく下回ったと分析しています。

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

「将来の夢や目標をもっていると思う子どもの割合」の増加。（項目変更）

スタート値（令和2年度）	小学校5年：79.3%	中学校2年：70.6%
令和7年度値	◎小学校5年：73.2%	◎中学校2年：55.5%
目標値（令和8年度）	小学校5年：89.3%	中学校2年：80.6%

「自分には良いところがあると思う子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：62.9%	中学校2年：60.9%
令和7年度値	◎小学校5年：72.9%	◎中学校2年：74.6%
目標値（令和8年度）	小学校5年：80.0%	中学校2年：80.0%

☆ 「自分には良いところがあると思う子どもの割合」については、小中学校ともスタート値を上回りました。一方で、将来の夢や目標をもっている子どもは下回ったままなので、**体験を広げ、経験を増やす**ことを重視するとともに、家庭や地域と一緒に**輝いている大人の姿を見せる**ことを大切にしたいと考えています。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：45.7%	中学校2年：32.7%
令和7年度値	◎小学校5年：59.1%	◎中学校2年：44.1%
目標値（令和8年度）	小学校5年：55.7%	中学校2年：42.7%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。

スタート値（令和2年度）	小学校5年：57.5%	中学校2年：66.7%
令和7年度値	◎小学校5年：66.2%	◎中学校2年：69.6%
目標値（令和8年度）	小学校5年：67.5%	中学校2年：76.7%

☆ 生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域の身近な題材を教材として学習を進めてきました。これからは「**学校運営協議会**」で**熟議を繰り返す**とともに、**学習を通して自分にできることを考えたり発信したり**するように取り組んでいきます。

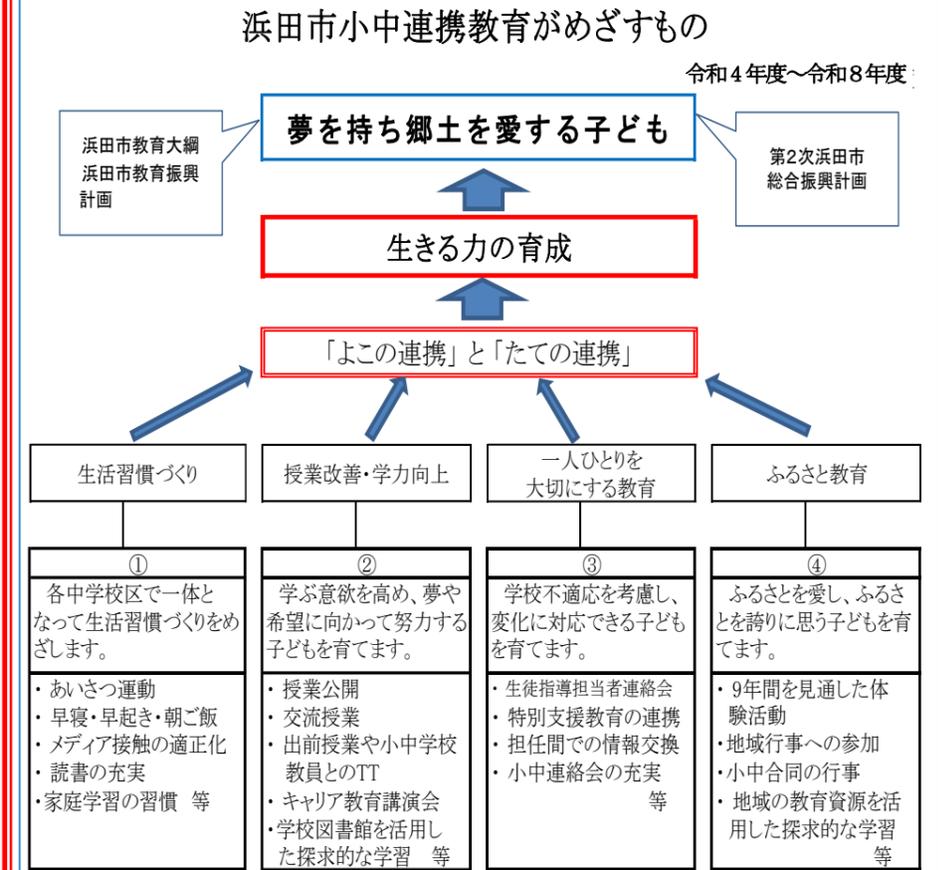
令和7年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》

めざす子ども像（浜田市教育振興計画）

夢を持ち郷土を愛する子ども



「**浜田市小中連携教育**」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度から中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達の段階におけるそれぞれの課題に対応するために、**幼・小・中一貫した「たての連携」**を重視し、前浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「**きまりを守り、生活リズムを正しくたくましく生きぬく子**」「**感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切にする子**」「**夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子**」の具現化に向けて、**中学校区単位**で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。この機会に、これまでの名称「**小中一貫教育**」を、「**浜田市小中連携教育**」とし、浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、実践を行うこととしました。今年度は、**後期の浜田市教育振興計画に基づいた取組の4年目**となりました。これまでの実践の成果と課題を踏まえて、取組の重点を「**中学校区で一体となった生活習慣づくり**」として取り組んでいます。

保護者の皆様にも、本年度の「**浜田市小中連携教育**」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。

浜田市教育委員会 教育長 岡田 泰宏

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

☆ 自分の考えや思いを伝え合い、他と学び合うことのできる子どもの育成 ☆

二中校区では、今年度新たに立てた小中連携教育全体構想をもとに、4つの部会を柱に取組を進めました。

〔学力育成部会〕では、「自分の考えや思いを自分の言葉で伝え合い、他と学び合うことのできる 学ぶ楽しさを知っている15歳」をめざし、読解力を育成するための手法の一つとして「要約学習（文章の図式化）」に取り組みました。第二中学校では、要約学習を取り入れた情報活用能力の育成に力を入れ、様々な教育活動において要約学習を取り入れた実践を行うとともに、要約学習で身に付けた情報活用能力を授業に生かす場の工夫を行いました。原井小学校では、要約学習を、読解力を伸ばすための土台づくりと捉え、要約学習と読解力向上とのつながりを意識した授業改善や、指導の重点を明確にした授業実践に取り組んできました。

☆成果と今後の取組

要約学習を考案され推進してこられた烏田勝信先生による児童生徒対象の授業では、毎回、課題に向け集中して図式化や表現活動に取り組む様子が見られ、回を重ねるごとにレベルが上がってきています。烏田先生は、指導に来られるたびに児童生徒の成長を褒めてくださり、児童生徒の能力も意欲もますます高まっています。

図式化を続けてきた生徒は、「文章の大事なところが分かるようになってきた。」「テストの問題文を図式化して内容を理解することがある。」等、読み取りに関する手ごたえを感じ、「自分の言葉で伝えられるようになった。」「自分の言葉で伝え合うのは楽しい。」等、めざす姿に近づいていることが伺えました。指導者も、烏田先生の研修をもとに、資料の整理や単元のまとめなど、様々な教科や場面で図式化を取り入れる工夫をし、特に伝え合う活動においてその成果を感じています。

今後も、これまでの成果と課題をもとに、小学校で培った力をさらに中学校で伸ばすことができるよう学力育成の取組を進めていきます。



要約学習の授業・中学校



要約学習の授業・小学校

☆ 小中の指導の方向性を同じにした取組推進 ☆

浜田東中校区では、小中学校合同の研修会を開催し、小中学校の教職員が同じ方向性をもって、児童生徒に関わることができるよう小学校と中学校の連携を図ってきました。また、要約学習や研究授業等の参観を通して、授業改善や9年間の継続した学力向上を目指し、取り組んできました。

① 小中職員合同研修会(人権・同和教育)

人権学習を推進し、児童・生徒の学ぶ権利の保障を意識して指導にあたるために、合同人権学習を行いました。「部落問題へのおもい」という演題で、講師の松村みはるさんから同和地区に嫁いで感じたことや教師の学びが子ども達の学びになることなどについて話していただきました。

② 小中職員合同研修会(特別支援教育)

子どもの見方やとらえ方について、浜田教育センターの指導主事に講義・演習をしていただきました。演習では、グループでの事例検討を通して、具体的な見方やとらえ方について理解を深めました。

③ オープンスクールでの授業参観

11月26日に、浜田東中学校のオープンスクールを行い、6年生児童が授業を見学しました。その際に、中学校が様々な教科を見学できるように設定することで、同行した小学校の教員が各教科の授業や進め方など小学校の授業改善の参考になるよう工夫をしました。

④ 学校運営協議会の活用

小学校と中学校が連携して取り組んでいることについて、互いに理解し合い、小中のみならず地域の協力も得て共に取組を進める基盤づくりが進んでいます。

☆成果

小中学校の教職員がともに研修を受けることで、お互いの意思疎通を図ることや、9年間を通して育みたい子ども達のイメージを共有することができました。



ふるさを愛し、ふるさを誇りに思う子どもの育成

☆ 地域の教育資源(ひと・もの・こと)を活かした教育活動 ☆

一中校区では、地域の教育資源(ひと・もの・こと)を活かした教育活動を、〔ふるさと教育部会〕が中心となって積極的に進めています。

令和7年度のふるさと教育部会では、校区の4つの学校が共通理解のもと、家庭、地域などの身近な大人との関わりを通して、地域貢献活動の意義を理解し実践しながら、「地域のために力になりたい」と思う児童生徒の育成に取り組んできました。

① 4校の取組の共有

「浜田市立第一中学校区ふるさと教育全体計画」や「令和7年度浜田市立第一中学校区ふるさと教育活動一覧表」により、4校のふるさと教育活動について、共通理解をしました。

② ふるさと教育の質の向上

「ひと・もの・こと」について、人事異動があっても取組が継続できるように、各学校で「地域資源を共有する」意識を高める指導者の研修会や共有を行ってきました。

☆成果と今後の取組

地域に出かけてふるさとの良さを学ぶことを実感したことで、自分が住んでいる地域が好きだという意識を高めることができました。また、各学校で、地域資源を活用し地域貢献を意識した学習活動を計画し、実施することができました。今後は、知ったことを繰り返し発信する活動を取り入れることで、学びが広がり、児童生徒の心に残るようにしていきたいです。



職業進路講話



田探検



農場見学



染め物を染しもう

学校不適合を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

☆ 「夢企画部会」の取組 ☆

金城中校区では、将来の夢や目標をもっていると思う子どもや、自分にはよいところがあると思う子どもを育むために「小学校間交流活動」と「小中連携交流活動」を行いました。

これまでで行ってきた「小学校間交流活動」では、〔夢企画部会〕が中心となって集団での体験活動を重視した内容やキャリア教育の視点を取り入れた内容になるよう改善を図りました。

10月に行った中学年交流会は、複数の教科の学習を合同で行いました。様々な児童と関わりながら学習を進める有意義な時間となりました。11月に行った高学年交流会は、午前は講師を招き主に親睦を図る交流を行い、午後は5年生は自分の将来について考える授業、6年生は他者と関わる力を育む授業を行いました。

小中連携交流活動では、中学校の人権集会に中学年児童が参加しました。また、中学生の職場体験の様子を小学生に動画で紹介する取組を行いました。動画を視聴した6年生はチャットを使って感想を中学生に送り、反応を返すようにしました。

☆成果と今後の取組

・交流を通して他校の児童と仲良くなったり、学年ごとの授業を通して互いの学びを深めたりする姿が見られました。
・小学校は中学校での学びの様子や中学校生活にイメージを抱くことができました。

・中学生は6年生や保護者に職場体験の様子を見てもらうことで、自己有用感の高揚につながりました。

これからの交流は、変化に対応できる子どもたちを育むために、今後も改善を図りながら積極的な交流を進めていきます。



授業



高学年交流会

学校不適合を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

☆ 中学校への不安を解消し、意欲を高める毎学期の交流 ☆

旭中校区では、6年生が抱く中学校への不安を少しずつ解消し、中学校入学への意欲を高めるために、小学校と中学校の交流を行いました。

1学期は、6年生が全ての学級の授業を見学し、中学校の授業の雰囲気や中学生が授業に取り組む姿勢を直接学びました。また、中学校の校長先生から、学習習慣の大切さや、小学校卒業までに身に付けてほしい姿勢などについての話を聞きました。

2学期は、中学校1年生が考えた「中学校生活に関するクイズ」をした後、小グループに分かれて交流をしました。グループでの質問タイムでは次第に打ち解け、授業の話や生活の話、部活動の話などを中学生からたくさん聞きました。

3学期は、入学説明会の日に、小学6年生と中学1・2年生が交流会を行いました。中学生は新生徒会の成長の場として、小学生にとっては先輩たちと直接楽しい時間を過ごし、中学校生活への不安を和らげる場となりました。

☆児童の感想

- ・これから中学校生活を頑張れるようになるために、しっかり準備をしていきたい。
- ・中学校生活は楽しそうだった。
- ・少し授業が難しそうだった。

☆成果

繰り返し交流を行うことで、6年生は中学校生活について具体的にイメージを持つことができ、不安が解消されたようです。中学生にとっても、後輩を迎える準備ができるとともに、「自分たちもしてもらったように後輩に優しくしたい」という意識を高めることができました。入学前からの関係づくりは、入学後の異学年の関係を良好にし、様々な活動がやりやすくなっています。



授業見学



校長先生の話を聞く児童

☆ 中学校教員による授業体験を通して中1ギャップの解消を図る ☆

三中校区では、昨年度から校区の小学校が3校となりました。そこで、11月に来年度の新入生を対象に「中学校教員による授業体験を通して、中1ギャップの解消を図る」ことを目的とした「新入生交流会」を実施しました。

まず児童の希望により編成した授業クラスに分かれ、授業体験Iを行いました。それぞれの授業が工夫されており、とても楽しく、中学校生活で最も大切な教科学習への見通しや意欲がもてる時間となりました。(内容は次の通りです)

- ・国語科：難読漢字しりとり
- ・社会科：都道府県カルタ
- ・数学科：20番目の数字を考えよう
- ・理科：蒸発は何度ですのか調べよう
- ・英語科：すごろく
- ・生活単元学習：ミニティッシュケースを作ろう

続いて3校の児童ともっと親しくなるために、ゲームを行いました。短時間の活動でしたが、他校の児童と打ち解け、仲良くなるきっかけづくりとなりました。

☆成果と今後の取組

活動を通して、互いの顔や名前を知り、中学校での学びを少しでも感じておくことは、これからの中学校生活での見通しや人間関係を作っていくうえでもとても大切だと感じました。

新入生交流会が終わった後、「最初はみんな緊張していたけれど、時間が経つにつれて、いろいろ話すことができたので仲が深まったと思う」「交流会では、コミュニケーションをとりながら楽しく活動できた」といった感想が聞かれました。

今後は、高校推薦入試の時期も考慮し、2月に行う入学説明会に併せて授業体験Iを行う予定です。



理科の授業



三中校区新入生